

平成27年度 第4回公立大学法人鳥取環境大学経営審議会 議事要旨

- 日 時 平成28年1月28日(木) 13:30~15:20
- 場 所 公立鳥取環境大学 大会議室(本部講義棟3階)
- 出席者 高橋一委員、河原正彦委員、三野徹委員、若原道昭委員、岡部哲彦委員、
林田英樹委員、吉田圭子委員、渡邊良人委員 [6名/10名]
葉狩弘一監事、松本美恵子監事[2名/2名]
- 欠席者 藤縄匡伸委員、山田憲典委員

【議事】

1 前回議事要旨の確認

原案のとおり了承。

2 審議事項

(1) 翌年度以降の債務負担行為について

資料に基づき説明があり、異議なく承認された。

(2) 中期目標及び中期計画の変更について

資料に基づき、変更点等について説明があり、原案のとおり承認された。

主な意見・質疑は次のとおり。

<意見交換・質疑応答>

- ・おそらくこの目標を基に教員・職員採用等を実施し、増員していかれると思うが、目標・計画に沿って進んで行っていただきたい。
大学としての目標に沿った教育を行っていただければと思う。これを機会に、さらに前進していく気運を高めて頂きたい。
- ・障害のある学生に対する合理的配慮が義務付けられることに関し、大学として実施することを加えてはどうか。
⇒障害のある学生に対するフォローは、既に取り組みを行っており、年度計画、中期計画でご指摘の内容を反映できるよう検討する。
- ・IR体制強化を文科省も強く提示している。IRに関する記述もあっては良いのではないか。
- ・安全管理に関し、情報セキュリティに関する具体的な方針が未整備というのは、セキュリティの問題上、少し遅いのではないか。
⇒昨年度から既に作業は進めており、運用規程案を作成中である。
- ・就職支援、インターンシップについて、従来型のインターンシップだけでなく、例えば、企業が受け入れた学生に課題を与え、学生たちがその課題解決策を考えプレゼンすることで、企業も学生の意見・若い考えを聞く場を得られるといった双方にメリットがあるやり方もある。工夫を図りたい。
⇒現在、COC+の一環で、インターンシップが県下全体で広がっているところである。若者が鳥取県に定着してくれるような方策を様々に行っている。
まちなかキャンパスを利用する等、検討していく。
- ・カリキュラム改革について、「専門教養的科目」とは、具体的にどのようなものか。
⇒双方の学生が、他学部の専門科目の基礎を受講できる。例えば、環境学部のた

めの経営学、という割り振りではなく、お互いの専門科目の基礎を学ぶことが重要と考える。専門性につながる形で、1年生で習ったことが、将来役に立つようにしたいと考える。

- ・卒業単位要件が128単位は、比較的多いと感じる。

⇒124単位が最低の基準であるが、それ以上は大学が独自性を発揮している。

(3) 公立大学法人公立鳥取環境大学職員給与規程の一部改正について

資料に基づき説明があり、異議なく承認された。

(4) 公立大学法人公立鳥取環境大学役員報酬規程の一部改正について

資料に基づき説明があり、異議なく承認された。

(5) 公立大学法人公立鳥取環境大学審議会委員等の報酬及び費用弁償に関する規程の一部改正について

資料に基づき説明があり、異議なく承認された。

(6) 公立大学法人公立鳥取環境大学特命教員就業規則の制定について

資料に基づき説明があり、異議なく承認された。

主な意見・質疑は次のとおり。

<質疑応答>

- ・担当コマ数や、個人研究室等は考えているか

⇒まだはっきりとは決定していないが、COC 関係の授業を持ってもらうことにはなろうかと思う。当面は、サステナビリティ研究所の空いている部屋を使うこととする。特命教員として4月から赴任できるよう、調整中。

3 協議事項

(1) 平成28年度当初予算(案)について

資料に基づき、来年度の予算編成(案)の概要について説明があり、原案のとおり承認された。

主な意見・質疑は次のとおり。

<意見交換・質疑応答>

- ・H28年度から、教員を増員するが、その人件費の増額分は？

⇒『人件費』と、『特別事業・新規事業・教職員増員分』に挙げた合計。

- ・『特別事業・新規事業・教職員増員分』について、財源の振分け方に基準はあるか

⇒設置者との協議、査定等を通し、決定している。

- ・昨年比、色々な面で節約して頂いていると感じる。今後も努力して頂きたい。

⇒昨年までは、要求が出てきたものをすぐには却下せず、必要なものは充足するようにしてきたが、来年度からは、予算の作り方も変え、削れるところは削るようにした。

- ・イノベーション研究センターとサステナビリティ研究所は、来年度いっばいで統合予定。

- ・支出について、人件費の比率について、公立大学の場合適正な構成比の比率はあるのか。

⇒適正な構成比、というより、設置者との計画においてある程度の数字が示されるに留まる。支出計画は、年々厳しくなってくるだろうとは感じる。

(2) 事務局組織の見直し(案)について

学長より資料に基づき説明があり、異議なく承認された。

4 報告事項

(1) 近況報告

資料に基づき、就職活動の状況、入試の応募状況、式典日程等その他近況について報告があった。

<意見交換>

- ・就職の状況が、これまでとは変わってきたなど感じる。ぜひこれを今後とも伸びていくように頑張ってきていただきたい。ようやくスタートの基盤が安定してきたのではないか。もう一段階ステップアップしていただきたい。

(2) 公立鳥取環境大学におけるリベラルアーツの取組について

資料に基づき、本学のカリキュラム改革に係るリベラルアーツの推進について、報告があった。

5 その他

来年度の執行部体制について、学長より報告があった。

IV 閉 会

次回開催予定 平成28年3月18日(金)